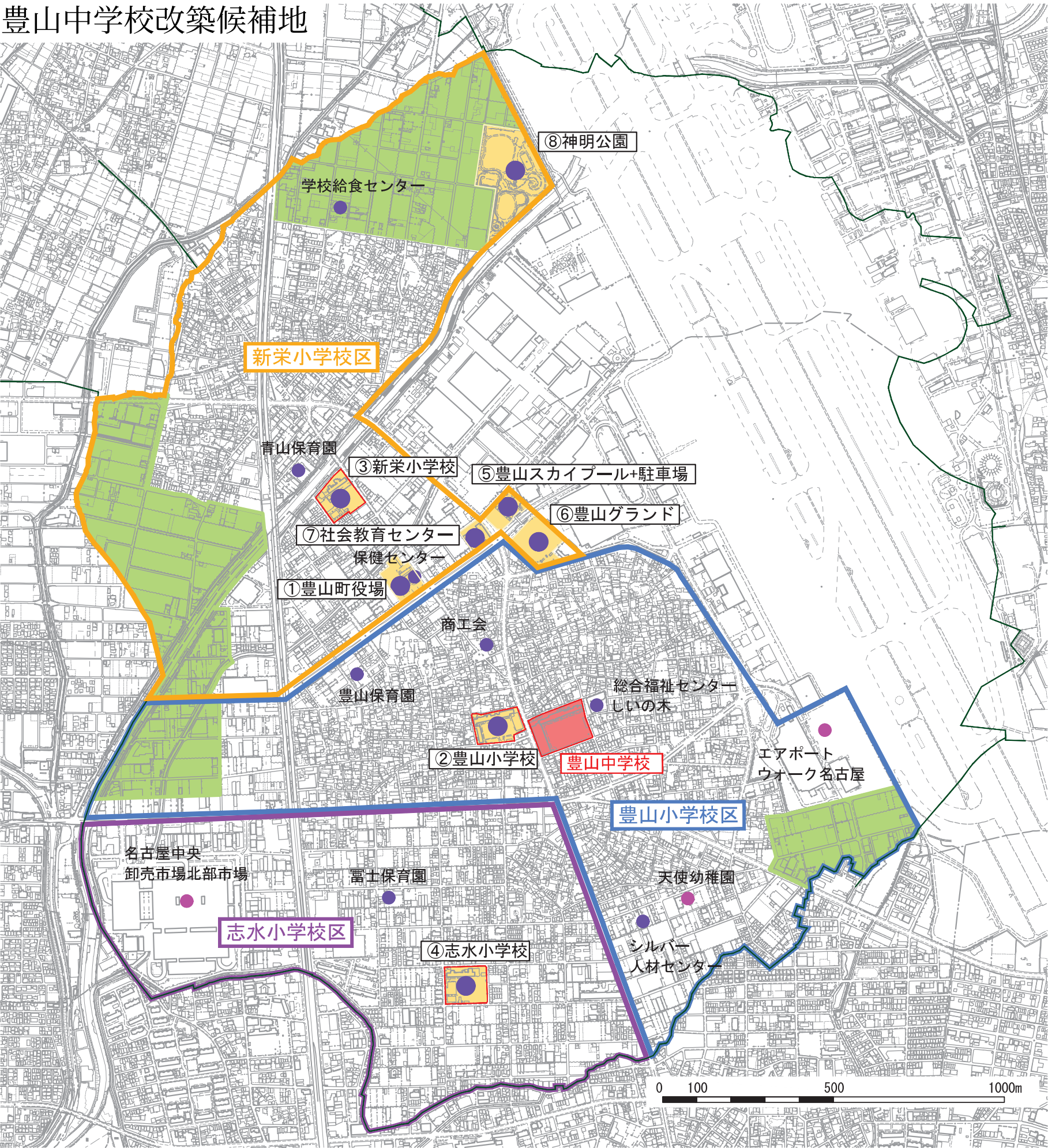


豊山中学校改築候補地



○候補地比較

候補地 1（現豊山中学校）	
所在地	豊山町大字豊場字前池 3 9
面積	16, 079. 85㎡(4, 864. 15坪)
用途地域等	第一種中高層住居専用地域、二種高度地区（H＝2 0 m）
都市計画等： 特定都市河川流域	

候補地 2（現にある町有地のうち5, 000㎡以上の一団の土地）		
①	庁舎	9, 394. 51㎡(2, 841. 84坪)
②	豊山小学校	14, 087. 30㎡(4, 261. 41坪)
③	新栄小学校	11, 207. 30㎡(3, 390. 21坪)
④	志水小学校	13, 919. 86㎡(4, 210. 76坪)
⑤	豊山スカイプール+駐車場	7, 697. 70㎡(2, 328. 61坪)
⑥	豊山グランド	14, 319. 00㎡(4, 331. 50坪)
⑦	社会教育センター	5, 216. 64㎡(1, 578. 03坪)
⑧	神明公園	42, 166. 34㎡(12, 755. 32坪)
都市計画等： 特定都市河川流域		

候補地 3（その他）	
所在地	豊山町地内
面積	25, 000～30, 000㎡(7, 562. 5～9, 075坪) 程度
用途地域等	市街化調整区域
都市計画等： 特定都市河川流域	

■凡 例	
	現豊山中学校
	現にある町有地のうち5, 000㎡以上の一団の土地
	市街化調整区域
	主な町有施設
	その他の主要な施設

豊山中学校改築候補地比較表

項目			候補地1(現豊山中学校)	候補地2(豊山スカイプール+駐車場、豊山グランド)	候補地3(その他)
敷地環境	①	敷地条件	・町のほぼ中央に位置している。 ・整形地であるが、面積に余裕が無い。 ・周辺に住宅が多く、日照・騒音・砂塵などに留意する必要がある。	・町のほぼ中央に位置している。 ・面積は十分であるが、敷地が道路で分かれるため、歩道橋が必要。 ・周辺に工場があり、対策が必要となる可能性がある。	・町の外縁に学校が設置される。 ・周辺は農地環境であり日当たり、照明設備等の影響を考慮する必要がある。 ・工場、物流倉庫等が点在しており、対策が必要となる可能性がある。
	②	通学距離	・国の基準（概ね6km）の半分以下の距離で通学可能 ・通学距離の地域差に大きな偏りは生じない。	・国の基準（概ね6km）の半分以下の距離で通学可能 ・通学距離の地域差に大きな偏りは生じない。	・国の基準（概ね6km）以下の距離で通学可能 ・通学距離の地域差に大きな偏りが生じる。
	③	地震や洪水による被害	・地震：最大クラスの地震時に震度6弱 ・液状化：液状化の可能性は極めて低い ・洪水：最大で0.5～1mの浸水が発生。	・地震：最大クラスの地震時に震度6弱 ・液状化：中程度の液状化の可能性はある ・洪水：最大で0.3m程度の浸水が発生。	・地震：最大クラスの地震時に震度6弱 ・液状化：液状化の可能性はほとんどない ・洪水：最大で0.5～3mの浸水が発生。
	④	周辺の道路状況	・敷地西側の県道は、朝夕を中心に交通量が多いが十分な歩道が設置されている。 ・北側道路は幅員が狭く車両の交互通行が困難な生活道路であり、東側南側道路は、一方通行の生活道路である。 ・県道側の門が狭いため、大型車両は東及び南側の道路よりアプローチすることになるが、幅員が十分でないためアクセスに難がある。	・敷地に面する県道は、朝夕を中心に交通量が多いが十分な歩道が設置されている。 ・敷地に面する町道は、歩道が整備された幹線道路若しくは交通量の少ない生活道路である。 ・大型車両の搬入出は比較的容易となる。	・幅員に余裕がある道路もあるが、必ずしも十分な歩道は整備されていない。 ・物流倉庫や商業施設が近隣にあり、交通量が多い道路もある。
計画条件		建替手法	・仮設校舎を現地に設置 ・校舎棟：改築、体育館棟（体育館・武道場・プール）：大規模改修工事（体育館棟の計画は平成31年３月に策定した「豊山町学校施設改築・長寿命化計画」による。）	・校舎棟、体育館棟：改築（体育館・武道場・プールを設置）	・校舎棟、体育館棟：改築（体育館・武道場・プールを設置）
		想定学校建物規模	・新校舎棟：約10,000㎡ ・既存体育館棟：約4,300㎡	・校舎棟：約10,000～13,000㎡程度（体育館・武道場・プール含む）	・校舎棟：約10,000～13,000㎡程度（体育館・武道場・プール含む）
学校運営	A	校舎配置	・西側に既存体育館があり、設計上の自由度は低い。 ・運動場を確保するために、1フロアあたり2,300㎡が限度となる。そのため、4F以降の上層階は日影規制により1,250㎡程度が限度となり校舎が高層化する可能性が高い。	・新校舎、運動場等の配置は設計により自由度がある。 ・敷地が道路により分かれている点で一部制約がある。	・新校舎、体育館、グラウンドの配置は設計により自由度がある。
	B	運動場	・運動場は既存よりも小さくなる。 ・テニスコートは2面程度確保可能（現状と同じ） ・200mトラック、100m直線設置可能	・テニスコートは3面程度確保可能 ・サッカーコートと野球グラウンド(マウンド)が干渉しない ・200mトラック、100m直線設置可能	・テニスコートは3面程度確保可能 ・校舎と野球グラウンドは分離できる ・200mトラック、100m直線設置可能
	C	駐車場	・設計により学校が求める台数（65台程度）分の確保は可能 ・地域開放専用駐車場を確保することは難しい。	・設計により学校が求める台数（65台程度）分の確保は可能 ・設計により、地域開放専用駐車場の確保は可能	・比較的余裕がある敷地条件であるため、十分な台数の確保は可能
	D	学習環境	・敷地に余裕がないため、ゆとりのある教室等の整備が難しい。 ・校舎が高層化するため、授業間の移動時間が多くなる。	・敷地は十分であり、ゆとりのある教室等の整備が可能である。 ・校地が分かれる部分については非効率な面もある。	・敷地は十分であり、ゆとりのある教室等の整備が可能である。
	E	生活環境	・敷地に余裕がないため、生徒の交流場所やトイレの場所等についての自由度が低い。 ・通風、採光は良好に確保できる。	・敷地は十分であり、生活環境に配慮した計画が可能 ・通風、採光は良好に確保できるが、周辺に工場があるため、必要に応じた対策が必要となる可能性がある。	・敷地は十分であり、生活環境に配慮した計画が可能・通風、採光は良好に確保できるが、周辺に工場、物流倉庫等が点在しており、対策が必要となる可能性がある。

項目				候補地1(現豊山中学校)	候補地2(豊山スカイプール+駐車場、豊山グランド)	候補地3(その他)
工 事	1	用地		・用地取得費はかからないが、工事期間中の運動場等の用地の手当てが別途必要 ・下水道は整備済み	・用地取得費はかからないが、造成が必要である。 ・雨水貯留施設が必要となる可能性がある。 ・下水道整備予定あり	・用地取得費と造成が必要 ・雨水貯留施設が必要 ・開発協議が必要 ・下水道整備予定なし
				・既存豊山中学校敷地内での建替及び改修となり、3年程度の工事期間中、約2年間生徒が仮設校舎で生活するため学習活動への負担が生じる。 ・一時的に、運動場、体育館棟の使用ができなくなる。	・町有地での移転新築のため、工事期間中の学校生活に対する影響はない。	・新たな敷地での移転新築のため、工事期間中の学校生活に対する影響はない。
				・敷地周囲は住宅地に接しているため、工事中の騒音等の影響が大きい。 ・工事進入路は、住宅地の中を通るルートとなり、車両の通行に注意が必要。	・周囲に住宅が少ないため、騒音等の影響は少ない。 ・近隣の事業者への配慮は必要。	・敷地周囲は部分的に住宅に隣接しているが、ほとんどが田畑であるため騒音等の影響は少ない。
	4	想定工事 ステップ		・仮設校舎建設工期	・造成工事	・新規土地取得事務
				・引越期間	・新築工事工期	・農地転用手続き
				・解体工事	・校庭整備工事期間	・開発行為手続き
				・新築工事工期	・引越期間	・造成工事
				・既存体育館棟改修工事：（新築工事中に実施）		・新築工事工期
				・引越期間		・校庭整備工事期間
				・仮設校舎撤去工期		・引越期間
				・校庭整備工事期間		
	5	(参考) 愛知県内中学校建設費		・半田市立乙川中学校(2023年10月竣工予定) 延床面積約9,800㎡ 工事費：約31.2億円(税抜) ・小牧市味岡中学校(2017年8月竣工) 延床面積：約12,000㎡ 工事費：約30.1億(税抜) ・小牧市小牧南小学校(2019年7月竣工)延床面積：約11,600㎡ 工事費：約42.3億円(税抜) ※昨今の建設物価及び労務費は上昇傾向となっており、上記参考例と同等の㎡単価で工事ができる保障はない。		